

ラスや園の友達だけでなく、地域の人や保護者と一緒に食事をする機会を設け、食を通して人と関わる力が育つような環境を整えることも、保育者の大切な役割である。

2) 遊びと保育者の役割

幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章第2 2 (3) ク「園児の主体的な活動を促すためには、保育教諭等が多様な関わりをもつことが重要であることを踏まえ、保育教諭等は、理解者、共同作業者など様々な役割を果たし、園児の情緒の安定や発達に必要な豊かな体験が得られるよう、活動の場面に応じて、園児の人権や園児一人一人の個人差等に配慮した適切な指導を行うようにすること。」とある。

整理すると、保育者の主な役割について下記の通りまとめられている。

① 子どもが行っている活動の良き理解者であること。

集団における子ども達の活動の意味について、時間の流れや空間の広がりを理解し、クラスの子ども達が、どこで誰とどのような遊びをしているのかという動きを総合的に重ね合わせて、念頭に置くことが大切である。

② 子どもとの共同作業者、子どもと共鳴する者としての役割。

子どもは、言葉で表現するだけでなく、全身を使って自分の気持ちを表現する。保育者は、常に、子どもに合わせて動いてみたり、子どもと同じ目線で見つめたり、同じものに向かったりすることで、心の動きや行動の意味が理解できる。このことを繰り返すことにより、子どもの活動が活性化し、保育者と一緒にできる楽しさから、更に活動への集中を生むことにつながっていく。

③ 憧れを形成するモデルとしての役割や遊びの援助者としての役割。

保育者が、ある遊びを楽しみ集中して取り組む姿は、子どもをひきつける。そして「先生のようにになりたい、やってみたい」という思いが、新しい出会いを生んだり、工夫して遊びに取り組んだりすることを促す。子どもは、日々の保育者の言葉や行動する姿をモデルとして学んでいく。特に、乳幼児期には、善悪の判断や思いやり、人をいたわる心などを身につける大切な時期である。保育者はモデルとしてその姿を示していくことが重要である。そのためにも、日ごろから、保育者自身の言動を振り返り、子どもに大きな影響を与えていることを認識して保育を行う必要がある。そして、子ども一人一人の発達に応じ、体験などを通して理解させたり、進んで守ろうとする気持ちをもたせたりする

ことが大切である。

④ 遊びの深まりが無く、課題を抱えたときに、適切な援助をする役割。

保育者は、子どもが迷った時に、すぐに援助して助けるのではなく、自ら工夫してやろうとしたり、友達と助けあったりする機会を大切にしながら、適切な援助を心がけることが必要である。援助方法も、ヒントを与えるだけで良いのか、いつまでに援助するのかなどを考えることが求められる。子ども一人一人の発達に合わせて、援助のタイミングや仕方を考え、自立心を養い、子どもの生きる力を育てていきたい。

⑤ 保育者は子どもが精神的に安定するためのよりどころとなる役割。

子どもが主体的に活動するには、精神的に安定した生活を過ごすことが大切である。

そのためにも保育者は安定感をもたらす信頼の絆を築くことが求められる。子どもの行動や心の動きを温かく受け止め、理解しようと努力することで信頼関係は生まれてくる。子どもの心情や喜び、楽しさ、悲しみ、怒りなどに共感し、応えることで、子どもは保育者を信頼し、心を開くようになる。

⑥ 状況に応じた柔軟な対応をする役割。

保育者は、既成概念をもって子どもの姿をみるのではなく、多角的な視点から捉えることが大切である。子どもと生活を共にしながら、対話を通して一人一人の特性や発達課題を把握し、目前で起こっている出来事からそのことが子どもにとってどのような意味をもつかを捉える力を養うことが大切である。保育者は、子どもの感動や努力、工夫などを温かく受け止め、励ましたり、手助けしたり、相談相手になったりしながら、心を通わせ、望ましい方向に向かって子どもが自ら活動を選択できるよう、きめ細やかな対応をしていくことが大切である。

【引用・参考文献】

- ・無藤隆「これからの幼児教育」ベネッセ教育総合研究所 pp.18-21. 2015年
- ・小川圭子著「保育者論-子どものかたわらに」みらい 2017年
- ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年